

岩手県技術士会 部会活動報告

| | | |
|-------|----------------------------------|---------------|
| 活動名 | 平成24年度 森林水産部会 現地見学会 | (CPD 番号 24-7) |
| 主催 | 岩手県技術士会 森林・水産部会 | |
| 日時 | 平成24年10月13日(土) 10:20 ~ 14:40 | |
| 場所 | 宮古市門馬山国有林320林班外「御山川治山えん堤補修工事」 ほか | |
| 参加人数等 | 13人 | |

活動内容

1. 見学会の概要

1) 御山川治山えん堤補修工事

(講師：三陸北部森林管理署 金井 治山課長
国土防災技術(株) 大坪 課長補佐)

御山川治山えん堤は昭和23年のアイオン台風被害から下流域を守るために建設された石積治山えん堤(L=103m, H=12.0m, V=6908m³)であり、石積えん堤としては当時最大規模のものであった。そのえん堤も老朽化が進み、その補修計画立案のため弾性波探査トモグラフィおよびボーリング調査による堤体評価等を行い、現在補修工事が行われている。その調査内容と補修工事状況を見学し、意見交換を行った。



御山川治山えん堤 (補修状況の説明)

2) かわい木の博物館 分館1号、16号

(講師：森と緑の研究所 村井所長
高橋氏、照井氏)

かわい木の博物館は、古木、名木、大樹など、大切に保護・保存され、テーマごとに分館が設定され、樹木との関わりを啓発することを基本目標としている自然博物館である。分館1号は兜明神嶽周辺の「不伐の森」であり、16号は全国でも珍しい「ハナヒョウタンボクの群落」である。これらを見学し、見識を深めた。



ハナヒョウタンボクとマユミの群落

2. 感想

御山川治山えん堤の見学では、老朽化し剥落した間知石が、全国でも人数の少ない石工によって、見事に復元されている様子を見学することができた。また、近年ではコンクリートや鋼製のえん堤が多い中で、この規模のえん堤を石積によって建設することがいかに大変か実感できた。

かわい木の博物館では、樹木が存在する現地を博物館とみたと、市民が樹木と気軽に関われる場となっていた。このような博物館は他ではあまりみる機会が無く、人と樹木の関わり合いを啓発する上で、非常におもしろい博物館であると感じた。



不伐の森での説明

— 以上 —
文責 山岡